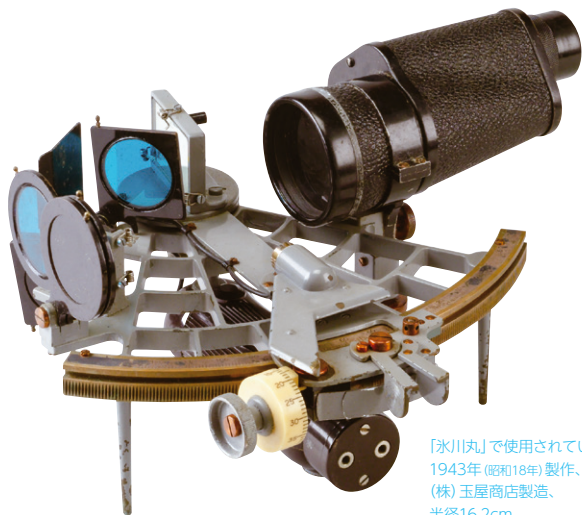


海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

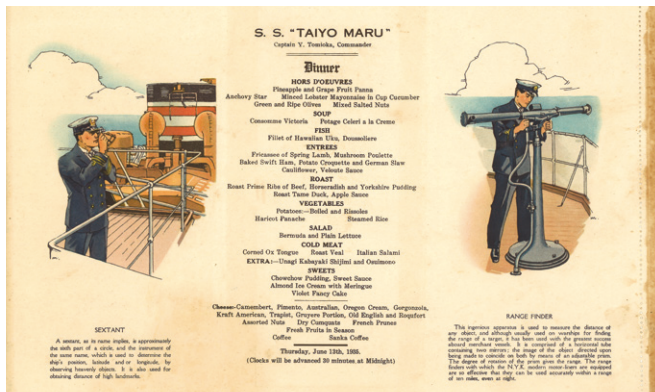
“ 六分儀 ”



「氷川丸」で使用されていた六分儀
1943年(昭和18年)製作、
(株)玉屋商店製造、
半径16.2cm
日本郵船歴史博物館で常設展示

六分儀は天体と水平線の角度を測る航海計器で、円を六分割した円弧の枠を持つているのでこの名が付いています。陸地の見えない外洋を航行する船舶では、航海士が六分儀を使って船位を測定していました。GPSなどの位置情報技術の発達と普及により、2002年には船舶設備規程が改正され法定船用品から除外されましたが、現在でも遠洋航海で航海訓練を行う練習船では、六分儀を用いて天測による船位測定を行っています。

製造元の(株)玉屋商店(現、タマヤ計測システム(株)・東京都品川区)は計測機器メーカーで、江戸時代初期に「玉屋」の屋号で眼鏡販売を手掛けたことに始まります。東京天文台(現、国立天文台)から依頼を受けて1913年(大正2年)に製作した日本初の天文観測機器の開発技術を基に、当時は海外から輸入に頼っていた六分儀の国産化に着手しました。現在も六分儀を含む航海計器を製造・販売しています。



「大洋丸」夕食メニュー
1935年7月13日(昭和10年)、縦30.6cm×横19.6cm
左の図柄は、一等航海士が六分儀を使って船位測定する様子

問い合わせ

日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中央区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

- 入館料：一般400円
シニア(65歳以上)・中高生250円
小学生以下無料
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の掲示で入館無料)
- ウェブサイト：<https://www.nyk.com/rekishi>